

不適切検査対応進捗について

2019年4月25日

 日立化成株式会社

不適切な検査等のお客様対応進捗状況他

(延べお客様数、()内は構成比)

項目	計	A	B	C	D	E
日立化成	2,329 (100%)	1,876 (81%)	448 (19%)	4 (0%)	1 (0%)	0 (0%)
国内 グループ会社	127 (100%)	78 (61%)	16 (13%)	26 (20%)	0 (0%)	7 (6%)
海外 グループ会社	131 (100%)	30 (23%)	25 (19%)	51 (39%)	9 (7%)	16 (12%)
合計 (構成比)	2,587 (100%)	1,984 (77%)	489 (19%)	81 (3%)	10 (0%)	23 (1%)
連結売上収益比率 (構成比)	19.6% (100%)	11.7% (60%)	5.6% (29%)	1.5% (7%)	0.4% (2%)	0.4% (2%)

(注) A:性能確認を完了しているお客様 B:性能確認が進行中であるが、当面は問題ないとの見解を得ているお客様
C:性能に問題なしとの当社見解をご連絡済みのお客様 D:対象製品の納入実績があることをご連絡済みのお客様
E:対象製品の納入実績があることをこれからご連絡するお客様

公表済み30製品以外の不適切事案 (グループ会社製品。品質に影響のないことを社内確認済)

分類	製品	分類	製品
樹脂材料	樹脂パッキン	その他機能材料	レジンコーテッドサンド

開発部門の調査結果：全社開発部門の調査を行った結果、問題ないことを確認した

人の手を介さない検査システムの構築

目的：自動化による、検査データ、成績書等への人為的操作の排除

目標：日立化成の事業所は2020年度末まで、グループ会社は2022年度末までに自動化を完了(投資規模120～150億円)

進捗状況：STEP1「成績書発行システム」業務及びシステム設計実行中
2019/4月時点 STEP2「測定器自動転送化」現状設備調査及び投資詳細見積実行中

今後の導入計画

		完了		実行中		計画	
	Step	2018/4Q	2019	2020	2021	2022	
日立化成	STEP1 成績書発行システム	プロジェクト発足 方針設計	業務・システム設計	導入・運用			
	STEP2 測定器自動転送化	現状調査	見積	システム設計	導入・運用		
グループ会社	STEP1 成績書発行システム		現状調査・設計	モデル品種導入	全品種導入		
	STEP2 測定器自動転送化				現状調査	導入・運用	

(注) 日程や投資額は、今後の状況により変化する可能性があります。

継続的なトップメッセージ発信と 経営者と従業員間のコミュニケーション強化

コンプライアンス教育の強化

教育プログラムの内容

コンプライアンス特別講習（新設）

不適切事案再発防止の内容につき、階層毎に網羅的にワークショップ形式で教育を実施

職能専門教育（新設）

品質保証、営業、開発、製造の部門(第1ディフェンスライン)を対象として、実務に沿った再発防止のための教育を実施

弁護士によるコンプライアンス定期講習（継続実施）

コンプライアンスに関するeラーニング（継続実施）

コンプライアンス違反に関わる就業規則運用強化